

「挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援」 にボランティア参加して

県立看護大 Y.T

これまでの自己の体験から、病院での精神疾患患者に対する支援については学ぶことができていたが、地域で暮らす精神疾患患者への支援については知らないことが多かった。研修会の中で、それぞれの訪問看護ステーションの取り組みについて映像で共有しており、病院だけでなく地域で患者のニーズに合わせた支援を行うことの大切さを感じた。

また、研修会という場で地域の取り組みについて知ることは患者への支援の充実に向けて病院で働く医療者にも必要なことであると感じた。

パネルディスカッションでは、訪問看護ステーション、訪問診療、包括支援センター、行政が地域支援に関する意見交換を行っていて、それぞれの考えや今後の連携に向けた課題についても共有することで多方面からの支援につなげようとしていることがわかった。

これまでの講義や実習等を通して、精神疾患患者の支援では長期入院や地域で暮らすうえでの周囲の理解などの問題があることから、地域連携のネットワークを構築することが重要であるという理解はしていた。しかし、実際にそのネットワークづくりをどのように行っているのかということが気になっていた。

今回の研修会では、訪問看護ステーションが中心となり地域包括支援センターや保健所、行政機関、病院や大学、利用者など様々な職種、機関・組織が参加しており、情報や意見交換を行うことで今後の地域で暮らす患者の支援に向けたネットワーク形成の場となっていることを学んだ。

今回の研修会に、運営側の立場からもボランティアとして参加させていただくことで、「精神障がい者の方々が地域でよりよく生活していけること」を主催する側一人一人が信念に持っている、支援者であることを実感した。

そして、その思いを共有したり研修会という場を持ってより広く地域や社会に共有し問いかける活動を通して、支援の輪を広げていっていることがわかった。

一つの制度や取り組みで大きく社会が変化しなくても、このような組織の形成や連携の輪を広げる取り組みを続けていくことによって、精神疾患患者の方々がよりその人らしく生きることや社会の理解を進めることにつながっていくのではないかと感じた。

自分自身、今後は病院で働くことになるが、各訪問看護ステーションの様々な取り組みについて知ったり研修会という情報共有の場に実際に参加することで、病院であっても地域であっても対象がその人らしく生活できることを支えるのはとても大切なことだと改めて感じた。

また、病院内での支援に限らず地域での支援や関わる機関、職種の取り組みについて知ること、視野が広がり、病院と地域の連携がしやすくなったり患者にとってもよりよい支援につながることを感じた。精神領域は、自分が進もうとしている領域ではないが、看護職者になる者として、病院内だけでなく地域の取り組みについても理解していく視点を持ちたいと考えさせられる大切な経験になった。